

今回のパーキンソン病と脊椎のテーマは2012年11月号で取り上げられ10年以上経過している。その当時からはパーキンソン病を伴った脊柱変形、特に後弯変形に対して積極的に手術治療に取り組んできた。カンプトコルミアを伴ったパーキンソン病に対しては抗PD薬、DBSでコントロールされてきたが、姿勢異常の改善が得られない患者を多く経験した。椎体骨折を合併してさらに後弯変形が進行し、歩行は困難となり、食事に支障をきたし、座位バランスも保てなくなり著しくQOLが低下する。患者に対する手術加療は、術後周術期管理、リハの積極介入が困難であり、また易感染性、さらには隣接椎体骨折をすぐに誘発して複数回手術となることが報告され、脊椎外科医も消極的であった。一方、脊柱変形に対する手術技術やナビゲーション、ロボティックス・サージャリーの導入など、新しい技術を取り入れて積極的に手術を行う施設も増えてきた。手術の成否は、周術期における脊椎外科、脳神経内科、リハスタッフをはじめとしたチームによる協力体制が不可欠である。また、内服治療やリハ、そして骨粗鬆症の治療も進歩してきた。今回、亀山先生の企画により、パーキンソン病を専門に扱う脳神経内科医や手術を積極的に行っている脊椎外科医に治療の最先端を解説していただいた。多くの新しい知見が盛り込まれ、読みがよいあるテーマとなっていると思う。

さて、コロナ感染も5類へ分類され、特化された施設だけでなく一般の病院での治療が可となった。いまだに忘れた頃にクラスターが発生して困ることもあるが、以前のような悲壮感はない。コロナ禍以前のように多くの難治例患者が紹介され、また90%の稼働率が維持されるようになった。忙しい。ただ、いくら稼働が増えても、診療報酬が上がらねば現在の光熱費高騰にはついていけない。他業種では値段調整が可能であるが、われわれの医業は診療報酬に規定された定額制であり、今回の電気料金や材料費の高騰には頭を悩ませる。さらに追い打ちをかけるように来年度から医師の働き方改革が始まる。自己研鑽か就労か……判断に苦慮する場面も多くあるが、学会発表や症例検討はどうなのか……。医師によって考え方はさまざま、これはこれと線引きは困難であろう。われわれにはさらに研究、教育もある。あまりにも多くのことが降りかぶってきており、この世の中少し疲れ気味か……。いや悩んでいても仕方がない、前に進むしかない、上を向いて、明るい夢を目指して進むしかない。

(松山幸弘)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 36 No. 9
(2023年10月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体2,500円+税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料 33,300円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2023,
Printed in Japan

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。